

新規事業の防雪柵加工をロール成形機利用 により生産性向上と流通の合理化を目指す



背景・目的

防雪柵の加工にあたり、現状の設備では需要期の大量生産への対応が課題となっており、発注者のニーズを満たしきれない状況にある。そこで、設備投資により生産リードタイムの短縮と関連する機械稼働率向上により、コスト削減・量産化を目指す。

現状の北海道発送体制を、当社が加工発送拠点

となり東北各地へ製品を供給し、輸送距離減で環境負荷の低減を図るため、設備投資としてロール成型機を導入した。

実施内容

雪国の交通網を守る防雪柵は、需要が年々高まっており、市場規模に大きな期待が持たれる。現在、北海道小樽より東北各地へ加工発送されているが、当社が本州の加工発送拠点となるためには、需要期の大量生産への対応が課題である。

そこで、現在の機械設備に、ロール成型機を導入することで、発注者のニーズに即した質の高い製品の納入や生産リードタイムの短縮によるコスト削減の他、輸送距離減で環境負荷の低減も可能となる。



成果

成型精度の安定した製品の連続生産が実証された。

ロール成型機導入後は、今までは1回ずつ計4回曲げていたものが最初から4回曲げた形に成型されて出てくる。金属板に穴をあけたものをロール成型機にセット、1枚作るために約5分かかっていたが、導入した機械は20秒で完成。生産性が向上し、量産も可能となった。

受注があった場合、今までの機械で一折り一折り対応してきたが物量対応ができなかった。導入した機械と導入前の機械では、どちらも二人担当するが労力が全く違い、まるでところてんのようにスムーズに精度の安定した製品が出てくる。

最近では八戸市のスケート場、YSアリーナ八戸の外壁を当社が請け負った。新しく導入した機械があったからこそ受注だと思っている。今までの機械では物量が多すぎて受注ができなかった。機会があればぜひ当社が施工した外壁を見てほしい。県内・東北管内では当社が唯一である。



勝又金属工業 株式会社

代表者 / 代表取締役 勝又 祐人

創業 / 明治23年7月

資本金 / 1,000万円

従業員数 / 34名

〒030-0151

青森県青森市大字高田字日野 58-1

TEL 017-739-4566 FAX 017-739-8429

〈事業内容〉明治23年創業以来、建築板金工事を主体に施工技術の向上と他社に先駆けて独自の技術確立してきたステンレス製作金物、装飾金物において設計・制作・施行等、一貫して専念している。

【今後の展望】

防雪柵は冬道の防雪対策として、安全確保に大きな効果を発揮していますが、現在、東北地方には加工できる業者が無い状況です。そこで当社が本事業により、ロール成型機を新規導入（東北初）したことで成型精度の安定した量産体制が確立された他、東北の加工発送拠点にもなり、それに従事する人々の技術力を活用することで、安定的な製造体制を確立し、



キレンダースパン（防雪柵）

それが経営基盤強化に繋がり、持続的に成長できる事業部門にしたいと考えています。当社は本事業の成果を受け、本格的に金属加工業へも進出することで、今まで以上に安定的な財務基盤の確立を図りたいと考えています。

本事業により導入したロール成型機は、全国的にもトップクラスの機械設備でもあり、既に事業化後の引き合いに対する受注要望を満たすことが可能となっています。今後は、東北全県から北陸・甲信越をターゲットとしたシェア獲得を目指します。

社長のお話

令和2年に創業130周年を迎えるにあたり、実行委員会を立ち上げ様々な企画を計画中。現在決定しているものは①半纏を新調する。②エンブレム入りのプレザーを社員全員に作る（のちは5年勤続した人にプレザーを進呈予定）。式典等は開かず社員とその家族で感謝の夕べを開く予定。

商品紹介

【キレンダースパン（防雪柵）】表側からは窓がどこにあるのかわかりにくく、内側からは外が見え風や光が入ってきますので、お風呂場等の窓への取り付けは目隠しとしても最適だと思います。また、雪が内側に一切積もらないので雪を払う必要もなく、

防雪柵としても大きな効果も発揮しています。例えば冬場の換気や道路側に面している窓、老人ホームで窓が開けられないところに設置（固定されるので）すると光と風は入り、雪はほとんど入ってきません。



表側



内側